



発行：小網代ヨットクラブ

編集：広報委員会

編集長：里吉美恵子

〒238-0225

神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18

Tel&Fax 046-804-5550

小網代通信

2017年 2月号 VOL-224

今月の内容

・ 連絡事項	編集委員	1ページ
・ 「小網代ヨットクラブ 新会長 ご挨拶」	清水 正一(未央)	2ページ
・ 「小網代ヨットクラブ 副会長就任にあたり」	飯島 洋一(SalmonFour)	2ページ
・ 「サガミ高野氏の陶芸作品(旧友の消息)」	今北 文夫(サンゴ)	3ページ

連絡事項(編集委員)

1. < 1月新年会・2月定時総会 開催報告 >

●1月15日(日) 新年会

20艇(83名)の参加のもと開催されました。当日はKFR499回が開催される予定でしたが、午前8時時点の荒天の状況やその他の情報をもとに、コミッティは安全面などを考慮しレースを中止することに決定いたしました。レースと新年会に参加予定だった方々の中には、新年会開始の午後2時まで待てずに帰宅した方や、新年祝いで飲み始めてしまった方々もありました。会場は後期の表彰や3月に行われる“500回記念レース”イベントのファミリークラス参加やパーティなどの話題で盛り上がりおりました。

レース中止を告知するN旗が強風にはためきました。

(1月コミッティ 飯島征四郎氏撮影)



●2月3日(金) KYC 定時総会

34艇のオーナー及び代表者が出席されました。佐々木事務局長の開会挨拶から始まり、2年間会長職を務められた伊藤会長の2016年度の活動報告、会計担当の望月氏より決算・予算と報告があり、異議なく承認されました。また清水新会長が2017年度活動計画(案)の説明を行い、副会長には、飯島(洋)氏が承認されました。また、昨年末に艇名を変更した「Over The Hill」(旧艇名 アフロディーテ)から、オーナー代表が増田 潔氏から井上嘉夫氏へ交代することについて説明と挨拶があり、承認されました。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 2月20日(月)18:30~21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

2017. 2月号-1

小網代ヨットクラブ 新会長 ご挨拶

未央 清水 正一

この度、小網代ヨットクラブ会長を仰せつかりました、未央の清水正一です。
昨年は、創立60周年、クラブハウス10周年と節目の年でした。
また、小網代宣言が発信され20年になりました。
小網代ヨットクラブは、各自の自己管理がその根本にあります、節目からの新たな年を迎え、今まで培ってきた歴史を尊重しつつ、基本を今一度考えてみたいと思います。

会員皆様のご理解、ご協力、お願い致します。



(写真の右側) 小学生の頃
こんな純真な時期もありました！

小網代ヨットクラブ 副会長就任にあたり



SalmonFour 飯島 洋一

小網代ヨットクラブ副会長を拝命いたしました SalmonFour の飯島洋一(いじまひろかず)です。同じ漢字(読みが違います)でレーザー級元オリンピック選手の方がいます。

Facebook では勘違いの友達申請が高頻度できており、承認した後に何か様子が違うことに気がつくようです。

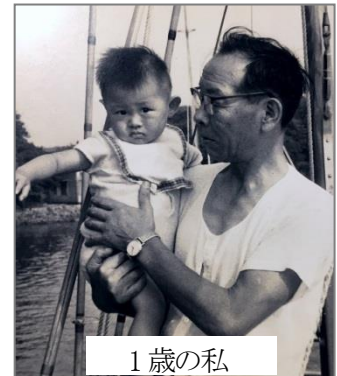
副会長は私よりも適任と思う方が大勢の中で、お声がけ頂いたことは身が引き締まる思いでした。永らく、小網代で楽しませて頂いていたので、何時かは何らかのことを引受けるようになると考えていたのが当クラブのレース委員長でした。

副会長となると更に覚悟が必要でしたが、クラブの生い立ち・歴史・経緯・現在を大切に、クラブの運営の一助となるように清水新会長のサポートをしております。

<私>

初めて小網代に来たのは1967年9月(右写真)。自らの意思で通い始めたのは1985年、高校を卒業してからでした。

当時の艇は渡辺修二さんデザインの木造ヨール艇 Salmon II でした。祖父より艇を引継いだ父とクルーとで、久しく参加していなかった KFR への参加が始まりました。“出ると負け”が続きましたが、セーリングが楽しく充実したヨットライフでした。



1歳の私

艇は1987年に Salmon III になり2000年には現在の SalmonFour となりました。その間、毎月 KFR に参加し小網代オーナーズクラブの各行事にも楽しく参加してきました。

2005年にレース委員長を拝命。これ以降総務委員会に出席するようになり、クラブの行事などに運営側・参加者側の両側面から接するようになっていきます。現在は KFR の航跡動画の担当をし、HP での各レースの航跡動画を作成しています。

当クラブ関連では、三浦外洋セーリングクラブのレースを担当しています。フリート対抗レース、ニッポンオールドセイラーズヨットレース、小網代カップレースなど当クラブの協力なくしては成り立たないものです。ただただ長く小網代に通っているだけ！とならないようにと考えています。宜しくお願いいたします。

サガミ高野氏の陶芸作品(旧友の消息)

サンゴ 今北 文夫

1964年東京オリンピック前後の小網代フリート創成期から、サガミのクルーとして NORC のレースや香港マニラレースなどで活躍していた高野克己氏から、陶芸を出展する旨の連絡が暮れに有りました。

高野氏は、定年退職後地方に引っ込み、小網代の催しにも来なくなり暫く会っていなかったもので、上野の東京都美術館に出掛けました。

展示会場に着くと直ぐに高野氏が出てきて案内してくれました。作品に近づくと、周りの他の作品を圧倒する大きさにびっくり、聞けば信楽の土を使用しているとの事、粘土代だけでもバカにならないと思う程でしたが、作陶の苦労話を聞きながら作品に見入りました。



「ストライプ エンドレス」と名付けられたその作品は、枝物を生ける大型の花瓶で、際限なく打ち寄せる波をイメージしているように思えました。全国から寄せられ、審査をパスして展示された入選作品 66 点中、トップ3に位置する「新日本陶芸協会美術館賞」を受賞していました。「新日陶展」の Web サイトから PC で見る事が出来ます。



展示された中にもう一点、茶道をされている奥様の注文によるものと思われる水指もあり、これは今年の彼の年賀状の物で、鮮やかなつやがあり、多分こちらが何らかの賞を貰えると思った自信作だったのではないかと思います。

実は、女房がガラ携で撮った、受賞作品を挟んだ2人の写真を家で見ると、作品が小さく見えることに2度びっくり。気合いの入った作品は、目の当たりにすると大変迫力があり、その存在感から非常に大きく見えたことに今更ながら感服しました。 兎に角、旧交を温めることも含め、素晴らしい一時を過ごすことが出来ました。

2017年1月21日